

# 映画「海難 1890」と「沖日記」

平成 30 年 4 月 13 日

ヤマヤ物産有限会社

山本修一

この度 私共が東京国際消防防災展 2018 に出展するにあたり 私共が災害時の暖房、主に足元暖房の機材を開発していることから 災害時の厳しさを知る資料として平成 28 年正月に私自身が文才もなく拙いが、わかり易く書き改めた「沖日記」を皆さんに公表することとした。

私がエルトゥールル号の遭難事件を知ったのは数年前、東京台場の「船の科学館」での展示であった。その後、映画「海難 1890」が上演され改めてエルトゥールル号遭難事件は私どもが防災、特に被災者を温かくすることを主眼に置き機材を開発している者には数々の教訓を学ぶことができた。

特に当時の村長：沖周によって書かれた「沖日記」は、明治時代における日本の海難救助の有り様を今日に伝える第一級の災害教訓資料とのこと。串本町大島のトルコ記念館に問い合わせたところ PDF で有るといふ。一読した。ひらがなの部分がすべてカタカナ表記であったが読んでいるうちに当時の状況が目の前に現れた。独特の修羅場の状況・雰囲気・臭いもが私の体を震わせた。

しかし文語体の文章は私には難読であったので『沖日記』（校訂版）をもとにして下記の事柄に注意し、より読みやすく試みた。改めてお願いするが文才のない素人の書き改めである、是非併せて原本もお読み頂きたいものである。

- 1、カタカナをひらがな表記にした。
- 2、さらなる難読語にはルビを振った。
- 3、筆者の熱意・感情 当時の雰囲気表現などを壊さぬように現代表現への変換を避けた。
- 4、手持ちのワードや電子辞書にない漢字は（）内に説明した。

参考：トルコ記念館

トルコ記念館は、和歌山県串本町の紀伊大島にある町立の博物館。1890 年 9 月 16 日に紀伊大島沖で遭難したオスマン帝国のフリゲート艦エルトゥールル号の模型や乗員の遺品のほか、トルコ政府から寄贈された品々を展示している。

所在地： 〒649-3631 和歌山県東牟婁郡串本町檜野 1 0 2 5-2 6

電話： 0735-65-0628